

市販の歯磨き粉で歯は白くなる?

スーパーやドラッグストアにはたくさんの種類の歯磨き粉が並んでいます。その中でもよく目にするのが、「歯を白くする」とか「ホワイトニング」の効用を謳った歯磨き粉です。実際に買ってみたいという人もいるのではないのでしょうか。

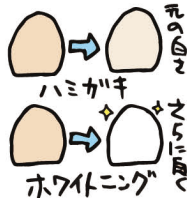
ところで、市販の歯磨き粉は本当に歯を白くする効果があるのでしょうか?結論から言いますと、市販の歯磨き粉で歯の色自体が白くなることはありません。歯を本当に白くすることができるのは、歯科医院で行っているホワイトニングだけです。

それは、歯科医院で行っているホワイトニングでは、歯を元の色より白くする薬剤を使用しますが、現在日本では、歯磨き粉にその成分を入れることが認められていないからです。



市販の歯磨き粉が「歯を白くする」効果とは

市販の歯磨き粉が「歯を白くする」というのは、歯の表面の汚れや着色(ステイン)を落とすことで歯が明るく見える“白くなったと感じる効果”を言っています。つまり、本来の白さが現れているだけで、実際に歯の色が元より白くなっているわけではありません。



研磨剤を多く含む歯磨き粉には要注意

市販されている「歯を白くする」「ホワイトニング」と書かれている歯磨き粉にはいくつかタイプがあります。ここで注意したいタイプの歯磨き粉が、研磨剤が多く含まれている歯磨き粉です。

研磨剤が多く入っていれば、汚れを落とす効果が高まりますが、歯の表面に無数の傷がついてしまいます。それを繰り返していくと、逆に傷に着色が付きやすくなりますし、知覚過敏

研磨剤は清掃剤と表記されている場合があります。主な成分は以下の通りです。

リン酸水素カルシウム
水酸化アルミニウム
無水ケイ酸
炭酸カルシウム、など

ホワイトニングのご相談はお気軽にどうぞ!



の症状が起こりやすくなるデメリットがあります。

研磨剤が多く含まれているかどうかは、成分表を見ればわかります。成分表は多く含まれているものから順に記載されますので、歯磨き粉を選ぶ際の参考にしてください。

むし歯を放置してはいけません!

「むし歯があるのはわかっているけど痛くないし、そのうち歯医者に行こう」と考えるのは危険です。むし歯は放置すると治らないばかりか、思わぬトラブルを招く危険性があります。

激痛が出る

むし歯が神経に達した時の痛みはかなり強烈で、痛み止めを飲んでも効かないことが珍しくありません。

治療が辛い

むし歯が神経に達して痛みが強い場合、麻酔が効きづらくなり、痛みを我慢して治療を受けなければならないこともあります。

歯を失う

むし歯が進行して歯がかなり崩壊している場合は、抜歯を余儀なくされることになります。

歯の寿命が短くなる

むし歯で神経を取り除いた歯は、枯れ木のようなもので、強い衝撃に弱く、割れたり折れたりしやすくなり、歯の寿命も短くなってしまいます。

周囲に感染が広がる

むし歯を放置し神経が腐敗すると、歯の根の周囲に膿溜まりを作ることになり、それがだんだんと広がるにつれ骨が破壊されていき、副鼻腔炎、骨髄炎などが起こる危険性があります。さらにひどい場合だと、細菌が血中に入って全身を巡り、心臓や脳などに感染を起こして命に関わることもあります。